1952年5月30日第3種郵便物認可

きょう2万号

しんぶん赤旗

2006年 7月23日 日曜日
日刊第20000号

発行所　日本共産党中央委員会
東京都渋谷区千駄ヶ谷4の26の7
〒151-8586　電話　03(3403)6111

©日本共産党中央委員会2006年

定価（税込み）
日刊月2900円（郵送は別途送料1380円）1部100円
日曜版月800円（同送料234円）1部200円
振替　00180-6-194897

ファクス　中央委員会　03(5474)8358
赤旗編集局　03(3350)1904

日本共産党のホームページ
http://www.jcp.or.jp/

「赤旗」を語る
2万号に寄せて

「赤旗」は二万号ですか。続けることは大事なことですよ。おめでとうございます。がんばってください。

一九二八年創刊？　私は六十六歳で、一九四〇年生まれだから、私の生まれる前からあるんだね。

いろんな記事を書き、まとめ、毎日出し続けるってことは大変なことだ。何でも続けるということは自分とのたたかいだよ。新聞づくりも同じで根気がいる。意志が強く、ずっと続いてきたってことでしょ。陰の努力がないとできないわけだから。読むのは簡単だけどね。

■　■

新聞は、偽りじゃなく本当にあったこと、こうなってほしいということが、いろんな人の目を通じて活字に現れてくるものでしょう。「赤旗」は、いいかげんな気持ちじゃなく、世の中が良くなるように、みんなを代表して書いていると思う。

私は相撲社会で丸五十年になります。ここまでこれたのは多くの人の支えがあってこそです。日々、感謝の心境ですね。

みんなの幸せへ一生懸命

なや・こうき　一九四〇年、樺太（現ロシア・サハリン）敷香町（ポロナイスク）生まれ。五六年二所ノ関部屋入門、九月初土俵。六一年九月場所後、横綱昇進。幕内優勝通算三十二回は最多。七一年五月引退、親方に。七七年脳こうそくで闘病。八〇年協会理事。二〇〇五年日本相撲協会を定年退職。現相撲博物館館長。

第四十八代横綱・大鵬
相撲博物館館長
納谷　幸喜さん

相撲は努力です。毎日のけいこ――しこ、鉄砲といった基本を続けることが、いつか実を結ぶ。現役をはなれ、還暦を迎えて、協会を定年退職しても、今度は相撲博物館の館長として、相撲を後世の人に伝えていくために、やるべきことがたくさんある。勉強は続くし、一生ひとのためだと思っています。

若い人たちに言いたいのは、まず自分が努力するということ。今は物があふれ、何でも簡単に手に入る時代だけど、自分たちの生活を良くする努力が大事だと思う。その上で努力が報われるような保障も要求するべきでしょう。

■　■

私の平和への原点は樺太（からふと）から命からがら引き揚げてきたこと。みんなが大変な時代でした。日本は広島、長崎の原爆など大きな犠牲を払ったし、よその国ではもっと悲惨なこともあった。こういうことを経験して、二度と繰り返してはいけないと学んだわけだから、人間みんなが幸せになれるように努力しないといけないと思うんだよ。

日本全国、各地を巡業で回ったけれど、地方によって言葉も考え方もみんな違う。でも相撲を応援しようということでは一致できるんです。同じように政治でも、いろいろ考えが違っても平和な社会をつくり、みんなが幸せにならないといけないんだということで一致できるはずです。

それを一生懸命「赤旗」はどうぞ報道しているわけでしょう。戦前からずっと……。

私が審判部長をしていたとき判定がずれたことがあった。それで話し合って、間違いを指摘されたら素直に認め、正しい意見を受け入れて一本化してきたんだ。

人間の心はそれぞれ違って「なんだ赤旗か」という人もいるだろうけど、考えは違っても、いろんな意見を聞きながら、お互いの違いを認め合うということが大事だよ。認めて話し合い、一つのいい方向にもって行けばいいと思っています。

聞き手・写真　武田祐一

沖縄から移転計画　米海兵隊の新拠点グアムルポ

ここに日本の税金7000億円

七月二十一日。年間百万人の日本人が訪れるグアムは「解放記念日」のパレードでにぎわっていました。一九四四年のこの日、グアムを占領していた旧日本軍を撃破した米海兵隊が、今度は日本政府の支出でグアムに駐留しようとしています。在日米軍再編による在沖縄海兵隊のグアム移転計画で、日本政府の支出によって建設される米軍住宅は、大豪邸級の一戸八千万円に達します。日本発の「軍需」を待つグアムを訪ねました。

（記事・竹下岳、写真・片桐貴喜）

グアム西北部の海岸地域に広がる海軍通信基地。米海兵隊の移転候補地とされる。手前は基地の建屋、森の中に米軍住宅、その奥遠景は観光地

米軍住宅は1戸8000万円

グアム北部の西海岸沿いに位置する米海軍通信基地、通称「フィネガヤン」。在沖縄海兵隊の移転候補地です。

道路沿いに数十棟の施設と大小のレーダーが点在しますが、大部分は空き地です。広大な未開拓の密林地帯も含まれています。その南には「フィネガヤンサウス」と呼ばれる米海軍住宅が建なっています。

米国防総省によると、通信基地約十二百㌶の敷地に兵力はわずか四十人。日米両政府は、ここに沖縄の第三海兵遠征軍司令部などの拠点や住宅を建設しようとしています。

邸宅が続くタムニン地区の高級住宅街

ところが、その住宅建設費は一戸あたり八千万円（約七十万㌦）。五月の参院決算委員会で日本共産党の井上哲士議員が暴露し、額賀福志郎防衛庁長官も認めました。

日本国内の米軍住宅は一戸あたり三千万円程度です。グアムの住宅事情を、複数の不動産業者に聞いてみました。

「新築の場合、平均的な住宅（寝室三部屋）で二十万㌦程度」というのが共通した答えです。米軍住宅は一部の高級幹部住宅を除き、寝室二―三部屋が標準です。

七十万㌦で、どんな住宅ができるのか。リゾート地帯に隣接する高級住宅地を歩いてみました。寝室が五―六部屋以上の大邸宅が並んでいます。不動産業者は、「このクラスで五十万㌦から百万㌦」といいます。七十万㌦というのは、最高級クラスの価格です。これが日本国民の税金で賄われるのです。

中古だと、もっと値は下がります。新聞広告を見ると、「米海軍基地から十五分。四寝室、全室エアコン完備、プール付き」で、価格は十八万五千㌦でした。

額賀長官は井上議員の質問に、「資材や労働力を外から持ってくるので割高になる」と弁明していました。しかし、グアムの基地建設計画（マスタープラン）を取りまとめている米太平洋軍のリーフ副司令官は「どの程度の労働力が必要になるのかなど、詳細について議論するのはまだ早い」と一蹴（いっしゅう）します。

米軍自身、まだ詳細を詰めていないにもかかわらず、米軍の言い値で「どんぶり勘定」をしているのが実態なのです。

（3面につづく）

海兵隊のグアム移転　日米両政府は五月、在日米軍再編「最終報告」で、沖縄の海兵隊八千人とその家族九千人をグアムに移転するとし、その総額約百三億㌦（約一兆二千億円）のうち、約六十一億㌦（約七千百億円）を日本側が負担することで合意。日本側の費用は①司令部庁舎②住宅（三千五百戸以上）③基地内インフラ（電力、水道）―などに充てられます。二〇〇八年から移転を開始し、一四年に完了させる狙いです。他国の軍事基地の費用を負担するのは歴史的にも国際的にも例がありません。

安心し生み育てたい
長野　日本母親大会始まる

母親の悩みを出発点に話し合い連帯しようと、第五十二回日本母親大会が二十二日から三日間の日程で始まりました。長野県はじめ県下全自治体が後援。一日目は長野市内五カ所で三十九の分科会やシンポジウムがあり、約六千六百人が参加しました。

「安心して子どもを生み育てられる社会を」分科会。北海道余市町の三歳男児の母親（30）は、孤独だった出産直後の体験を涙ながらに話し「独りぼっちの母親を家庭から誘い出すひとことを、かけてほしい」。国家公務員の女性（33）が長時間過密労働がまん延する職場の実態を語り「将来が不安で子どもをつくれない。子育ての楽しさ喜びを教えてほしい」とのべると、愛知県の子育て支援センター所長が保育所活用などをアドバイスします。

「子育てと仕事が両立できる職場を」と深夜業免除問題で裁判をたたかう日本航空客室乗務員や採算を理由とした産科廃止とたたかっている東京逓信病院職員など、母親が声をあげ行動しているとりくみを発言。「安心して子どもを生み育てられる社会にしていきたい」と参加者の思いが一つになっていきました。

この日は、品川正治（経済同友会終身幹事）、古屋和雄（NHKアナウンサー）、暉峻淑子（埼玉大学名誉教授）各氏の「日本のゆくえを語る」との鼎談（ていだん）、寺島誠一郎無言館館主と松本猛ちひろ美術館館長による「いのちのアトリエから」との対談などが行われました。二十三日は全体会が開かれます。

（14面に関連記事）

九州で記録的豪雨

九州南部から伊豆諸島に停滞する梅雨前線は活発に活動し、二十二日、九州南部を中心に記録的な大雨となりました。気象庁によると、宮崎県えびの市で降り始めからの総雨量が一〇〇〇㍉を超えました。各地で地方議員や党組織が救援活動にあたり、国や自治体に支援を要請しました。

鹿児島県内では、大口市で川に流された八十六歳女性と薩摩川内市で土砂崩れに遭った四十五歳男性、菱刈町で土砂に埋まった六十五歳の女性が死亡。さつま町で一人が行方不明になりました。熊本、宮崎、鹿児島の三県では土砂災害や河川のはんらんに厳戒態勢が続き、菱刈町や熊本県水俣市で全世帯に避難勧告が出されました。夕方時点で避難勧告・指示は計約二万七千世帯にのぼり、公民館などに避難した住民は不安な一夜を迎えました。

三県内の河川は、川内川、羽月川、米之津川、本庄川、球磨川で危険水位を超え、鹿児島県のさつま町内の川内川や出水市内の米之津川が一部ではんらんするなどしたため、民家の浸水被害が相次ぎました。さつま町、湧水町、菱刈町と宮崎県えびの市では、道路の寸断などで住民が孤立したところも。

気象庁によると、梅雨前線はゆっくり北上するため、強い雨域は北へ拡大し、二十四日午前零時までの二十四時間に予想される降水量は、多い所で九州北部が三〇〇㍉、南部で二五〇㍉、四国太平洋側で一八〇㍉、瀬戸内側で一五〇㍉、近畿南部で一二〇㍉。

大雨被害で死者20人に

梅雨の大雨被害は十九日以降、福井、長野、岐阜、京都、島根、岡山、鹿児島の七府県で死者二十人が確認され、行方不明者は四人となりました。

（15面に関連記事）

潮流

「しんぶん赤旗」の歴史を、さまざまな人が彩っています。

一九三一年三月、東京・五反田。作家・太宰治の下宿に、高校の先輩、工藤永蔵さんが駆け込みました▼工藤さんにそのときのもようを聞いた記事が、本紙に載っています。「急な仕事で部屋を借りたい。今晩おそくまでかかる」と工藤さん。太宰はおどろくようすもなく、「いいですよ」。工藤さんが礼をいい、「仕事中、二階にはだれもあげないでほしい」とたのむと、うなずく太宰…（一九九一年二月一日付）▼工藤さんの「仕事」は、「赤旗」の印刷でした。弾圧網をかいくぐり。太宰は当時、工藤さんの誘いで、日本共産党の同調者でした。彼はのちに離れますが、工藤さんは戦後も郷里・青森で活動をつづけます。亡くなるまで、いのちがけで「赤旗」づくりに携わった誇りを胸に▼太宰の下宿で刷られた「赤旗」は、「三・一五第四年を迎えて」の特集号です。一九二八年三月十五日、日本共産党に大弾圧が加えられました。特集号は、権力に抗議しながら党員や読者によびかけます。『赤旗』を中心に活動を展開せよ」▼やがて日本は、侵略戦争の時代へ。「赤旗」は、戦争の真実を語るかけがえのない新聞となります。活動に欠かせないだけでなく、世界を知るには手放せない新聞。生命力を引き継ぎ、きょう、日付に「第20000号」と刻みます▼あの三・一五特集号から、もう一つ。「プロレタリアートは…如何にして自分の記念日を記念するか。闘争によってだ」

ニュースと読み物

座談会 マスメディアの現状と「赤旗」の役割　4 5
夫婦の命救った最後の10円玉　3
〝助けてください〟共産党に電話
レバノン停戦求めよ　7
国際団体が英に訴え
メルコスル首脳会議　7
社会的協力など宣言
大相撲名古屋場所　11
朝青龍が優勝
初期微動で揺れ予測　14
気象庁が速報提供へ
パロマ「改造」33件　15
中毒死者21人に

㊫大阪・富田林　10
町並みと歌人石上露子

天気

のち　一時　上下　時々　最高　最低　気温
（日本気象協会・17時）

	昼	夕	夜	降水%	気温 24(月)	25(火)	26(水)
札幌				30	24/16		
釧路				20	16/12		
青森				10	24/17		
盛岡				30	26/18		
仙台				50	23/19		
秋田				10	28/20		
山形				40	27/19		
福島				50	25/21		
新潟				50	28/23		
富山				80	30/23		
金沢				60	31/24		
福井				60	32/24		
水戸				30	26/20		
宇都宮				50	27/20		
前橋				60	27/20		
さいたま				30	27/21		
千葉				40	27/22		
東京				30	27/23		
横浜				50	27/23		
甲府				50	29/21		
長野				60	29/21		
静岡				70	25/22		
名古屋				70	27/22		
岐阜				70	28/22		
津				80	27/23		
大津				80	28/23		
京都				80	29/24		
大阪				80	28/23		
奈良				80	29/23		
和歌山				80	28/26		
神戸				80	27/24		
岡山				70	27/24		
広島				70	27/23		
鳥取				70	29/24		
松江				70	28/23		
山口				90	25/22		
徳島				80	26/23		
高松				80	27/23		
松山				90	27/22		
高知				80	28/23		
福岡				90	26/23		
佐賀				90	27/22		
長崎				70	25/21		
熊本				80	28/22		
大分				80	26/22		
宮崎				30	32/24		
鹿児島				40	33/28		
那覇				10	31/27		

梅雨前線は九州から本州南岸に停滞。ほぼ全国的に雲が多くなっています。西日本は雨で、九州北部は激しく降る恐れがあり、警戒が必要。沖縄は台風5号の影響で、波やウネリが高い。